



プレスリリース 2008年6月16日(月):

**環境 NGO A SEED JAPAN がメガバンクの CSR を問う公開質問状を送付
～環境融資制度は整備されつつも、情報開示や取り組みの進捗に差～**

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN では、金融機関の融資業務という本業を通じた環境・社会配慮活動に関して、メガバンク 3 行へ公開質問状を送付し、回答を得ました。回答結果のポイントは以下の 3 点です。

- ①各行とも、環境配慮型の融資制度や、環境事業への融資制度を整備しつつあるが、具体的な融資額や目標額については公表できないとの回答が多く、情報開示の姿勢が不十分であると考えられる。預金者、一般市民も含めた各ステークホルダーに向けて、より積極的な情報開示が必要である。
- ②融資先の温室効果ガス排出量の計測・公表に関する取り組みについては、三井住友 FG は計測自体を行っておらず、みずほ FG・三菱 UFJFG に比べ大きな遅れを取っている。三井住友 FG には他の 2 行に追いつく取り組みが、また他の 2 行にも計測対象範囲の拡大などの取り組みが求められる。
- ③環境・社会にネガティブな影響を与える企業・事業への融資制限制度（ネガティブ・スクリーニング）については無回答が多く、取り組みはほとんどなされていないと考えられる。中でもクラスター爆弾製造企業への融資に関する質問については、3 行とも無回答であった。オスロ・プロセスにおいては、5 月末に日本政府もクラスター爆弾禁止条約の受け入れを表明しており、メガバンク 3 行にも人道的な観点に配慮した明確な対応が求められる。

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN エコ貯金プロジェクトでは、市民一人ひとりが自分の銀行口座を、金融機関の「社会性」や「環境貢献」への取り組みを考慮して選ぶという新しい預貯金スタイル＝「エコ貯金」の普及に取り組んでいます。市民の環境意識が高まり、環境・社会に配慮した金融機関を選ぶという考え方も広まっている中で、金融機関は率先して環境・社会配慮行動を実践し、預金者からの支持を集める必要があると考えられます。その活動の一環として、金融機関の本業を通じた環境・社会配慮行動に関して、メガバンク 3 行（三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、みずほフィナンシャル・グループ、三井住友フィナンシャル・グループ）に対し、実態調査および取り組み姿勢の調査を目的とした公開質問状を送付し、回答を得ました。

その結果、環境配慮型の融資制度や、環境事業への融資制度は各行とも整備されつつあるものの、クラスター爆弾製造企業等のネガティブな影響をもつ企業・事業への融資制限制度（ネガティブ・スクリーニング）に対する取り組みについては、ほとんど実施されていないことがわかりました。詳細については、別紙 1、別紙 2 をご参照ください。

■本プレスリリースに関する問い合わせ先

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN (担当: 田中、土谷)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-4-23

TEL 03-5366-7484 FAX 03-3341-6030

E-mail: info@aseed.org URL: <http://www.aseed.org/> (A SEED JAPAN)